

二〇一二年
九月議会

和歌山市議会九月定例議会は九月一〇日から開会され、私は九月十二日、一般質問にたち、木本地区連合自治会が行った「避難訓練」で出された住民の意見を議会へ反映させました。また和歌山市内の公園について管理のあり方をいただきました。

労災病院跡地道路「今年度中に市道認定」と答弁

木本地区連合自治会が呼びかけた「避難訓練」は六月二十四日実施され、住民の四分の一を超える参加者で実施されました。

その後の反省会で出された様々な意見を議会へ反映させました。

その一つは「避難道路」の問題です。

私は「旧労災病院の跡地を利用して二車線道路の建設及び木本小学校以北の道路の拡幅を」と要請しました。

市は「旧労災病院の跡地への道路敷設については、今年度中に市道認定の予定であり、小学校以北の道路拡幅については連合自治会との協議を行う」と答弁しました。



旧労災病院跡地。現在は民間分譲地造成中

「浸透破堤」の危険性を県、国に対応を要請する

「浸透破堤」とは、昭和三〇年代以前に建設された堤防は、内部を砂で押し固めた構造となっているため、水位が堤防を越えなくても砂に水が浸透し堤防が決壊する現象です。国土交通省は和歌山県内では紀ノ川、熊野川の堤防が「浸透破堤」の危険性を指摘しています。県、市の「防災計画」には対策が示されていません。

私は「最近の豪雨による堤防決壊の要因として指摘されている。津波、高潮、豪雨対策として市防災計画に示されていない。県・国に対して対策を要請すべきだ」と指摘しました。

市は「指摘の浸透破堤の危険性を含め、紀ノ川の堤防決壊となれば甚大な被害となる。国に対して整備を要請する」と答弁しました。

燃料タンク等への対策の検討

また漁港、港湾、事業所管理の「燃料タンク」の安全対策について質しました。

市は「『三陸沖激震』災害以降、地震・津波対策として、今年八月、総務省・消防庁から新たに燃料タンク等の危険物施設に対する予防規定策定に関する通知がされた。今後国の通知に基づき対応を検討する」と答弁しました。



日本共産党市議会議員 渡辺忠広

渡辺忠広 無料生活相談所

毎週・火曜日 十四時～、十九時三〇分
和歌山市土入二四一一五
電話 〇七三ー四八〇ー五四七七
顧問には弁護士、司法書士、会計士、社会保険
労務士の方にお願ひしています。

日本共産党和歌山市議会議員

渡辺忠広ニュース

2012年 9月 No. 33

自宅 和歌山市木ノ本71-54

電話 073-452-5732

Mail watanabe @ naxnet.or.jp

市議会・電話 073-435-1113

市内の全公園を市管理へ

和歌山市の公園は森林公園などの大規模公園から住宅団地内公園等が99箇所。宅地造成事業後の事業者管理公園は146。計245箇所あります。

私は、公園での子供の事故、災害が発生していることに触れ、市内の全公園管理、遊具管理を和歌山市が行うため、すべての公園を和歌山市への引き取りを求めました。

市は「都市開発許可基準の改定により3 ha以上の開発時は開発面積の3%以上の公園・緑地設置が義務づけられ、公園等は和歌山市へ所有権移転手続きが提出されるまで、市は完了検査はしないようにしている。

法改定以前の事業者管理公園については、事業者への適切な管理指導と同時に、管理を履行しない、できない公園については順次、優先順位をつけ和歌山市への引き取りをおこなっている。

現在、開発行為時に所有権移転がされていない公園のうち60%を引き取っている」と答弁しました。



防災対策 避難時の安全対策を要請

避難道路の橋梁補修を要請

九月議会で避難時の安全対策を要請しました。たとえば河川に架かる橋の問題です。具体的に指摘をしたのは、木本地区の警察学校へ通ずる道路です。農業用水池から浜代川をまたぐ橋脚の崩壊の危険性です。

私は「浜代川に架かる橋はわずか3m、高さも3mだが一五〇mmのH鋼で支えられている。地震などによって崩落すれば開発された団地の約四〇〇世帯は孤立し、火災発生となれば消防車も出動できない。警察学校への出動要請があっても出動もできない。同時に警察学校を避難場所指定されたとしても橋が崩落すれば避難もできない。こうした河川に架かる橋の総点検とその耐震化を図るべきだ」と要請をしました。

市は「老朽化した橋が数多くある。崩落により避難や市民生活に影響がでないよう緊急性の観点から優勢順位を考慮し、避難路の整備を進めたい」と答弁しました。



崩壊の危険性を指摘した浜代川に架かる橋

校内上履きの厚底運動靴への検討を

木本地区連合自治会主催の「避難訓練」は、木本小学校の生徒も参加しました。その後、保護者の皆さんから「上履きの靴底が薄く、そのまま避難できない」「今の上履きではガラスの破片があれば靴底は破れ危険だ」「運動靴など厚底の上履き指定をしてほしい」との声が寄せられました。

私は「靴底の薄い上履きでは、地震でガラス破片があれば突き刺さり、危険だ。下駄箱で下履きとの履き替えでは避難時間がその分遅れることとなる。日常、上履き・下履きの区別が必要であれば、厚底の運動靴への切り替えを検討すべきだ」と指摘しました。

市教育委員会は「上履きは保護者の判断で選択されているが、校長会を通じご意見を報告し、保護者会等での検討を要請する」と答弁しました。